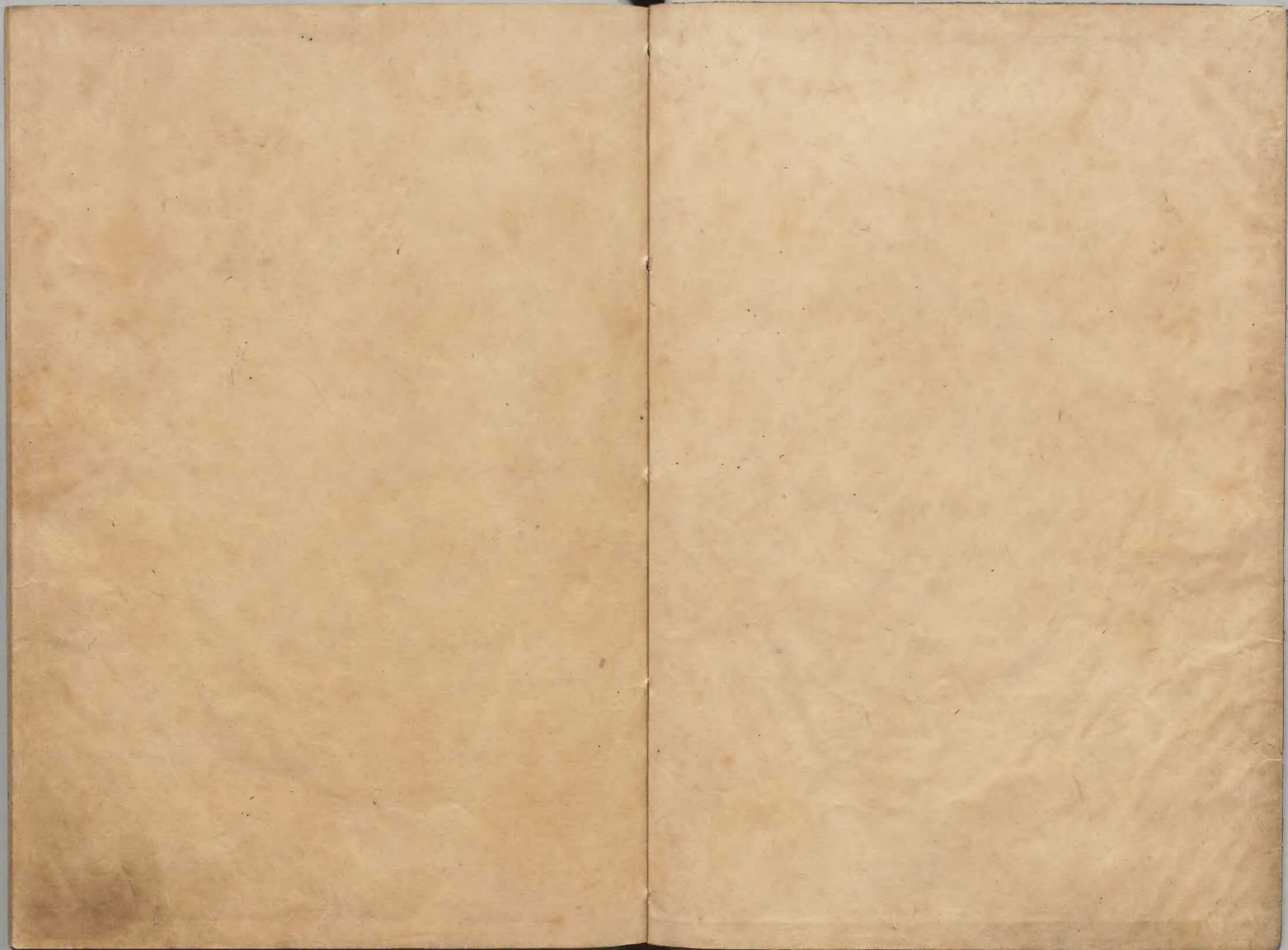


寛永諸家譜

平氏十九冊之内
良文流

内閣文庫	
番號	和 20199
冊數	186(71)
函號	76 1





相馬

物以類

某村

長久見

寛永詔家系馬傳

平氏

良文流

相馬

淺草文庫

高望王

上総介

平姓を尋ね

良将

鎮守府將軍

良文

鎮守府將軍

村長之助 後之佐

将門

おろ小次郎

自平親王

之頼

陰奥人 村長次郎

良文乃子将門乃

之常

藤上総介 千代乃祖

子將

小治島 子兼 後之佐下

子兼

子兼大丈 下総介
之永 後南 后 換北 遠使 補

子重

子兼 后之佐 下 換北 遠使 補

子胤

子兼 母 平政 轉 女
源 頼 朝 乃 弟 教 度 軍 功 あり
下 総 國 の 守 護 職 補 せ ら ぬ
治 承 安 子 九 月 頼 朝 乃 國 府 下 令
頼 朝 一 一 功 乃 賞 与 せ ぬ
元 暦 元 年 平 家 追 討 の 功 高 後

一、女子をいふ
義流アロ

と率て大身大將高冠若花新
属一とせひひ、あはくふ海
不属一後向と新物泰衛と
征伐乃ら奥州一と云ふ
功此業をききま
建久之年十月新物と属
供也す
正安二年二月廿五日十歳あり

死と

師堂

お馬治郎 あらふい、子孫治郎号と
母と秩父女重弘が女
奥州新方郡下総國お馬郡
新方郡と勢切の貴なり
新物年島越村の、花新
属一、あはく教向と云ふ

相馬之師 支那と領土事
元久二年十一月五日六十七歳
小く死す

義胤

相馬之師 支那と領土事
父は相馬
源實朝 勅使

胤綱

次郎左衛門尉 支那と領土事
父は相馬
義頼 同左 將軍 相馬と領土事
侍 左

胤村

左衛門尉 支那と領土事

いづか
將軍頼朝とてうぶ宗高頼より

正嘉二年春
乃とて流る

昨亂

小字杉原丸
支那と領す事

同日

張

文永九年正月二十九日
知領すべしとのり
平朝長政村を執領

重胤

孫の所
支那を領す事

つれづれ以下約方郡一領と
之弘二年七月十七日約方郡を以
安堵お遣りなすなり
宮内省
同二年七月廿一日高將法印兼
兼乃外具別當知約方軍相違
あり一〜ころあり一 大納言兼
物良玄房 宣旨と受けしあり
辨官の下文あり
建武二年六月一日具別當係

同二年七月十七日約方郡を以て
安堵お遣りなすなり
宮内省
同二年七月廿一日高將法印兼
兼乃外具別當知約方軍相違
あり一〜ころあり一 大納言兼
物良玄房 宣旨と受けしあり
辨官の下文あり
建武二年六月一日具別當係

具直理字右約方全原保郡等
換り職一福せらるる一 國宣
あり同二年志和尾張孫之節團
歌家卿と謀成の〜の具別一發
向の〜直理河名高一を
兼今一〜地は〜一なる所
一ある〜戦切河
同二年軍將斯波能下小原一
開東一進發一序〜戦也

をいふ事

同年奥州乃内高城保形所

勢すしこの旨将軍是利吉氏

斗はらるるなり判状を

同年前代蜂起のとき討

軍切あり

同比國司歌邊以下向の時軍將

隆奥守家長治一房一福余

一おひく合戦と云ふ事なり

法華堂乃下あり自給と云

なりとあり名とありと云

大よありとあり道号とあり

綱目

孫少郎 本羽指守

前國司のちらき奥州海道守

乃守後一福と

遠氏二子若根坂水音と云

合戦の事 我田といふ事 台良
大京更身原 何れかの旨 起渡
と 是迄に未 始終大物 一とらふ
同年 子田大陽守 おやのふ 子原
城 一しうい 合戦と云ふ事
將軍 尊氏 城 一とらふ
侍 尊一 京都 一とらふ
軍 史といふ事
同ら 一十一月廿二日 相馬郡 一様

不領乃 治之 箇村 將軍 尊氏 一わた
ま 一とらふ 判 一とらふ
同 字 一二月廿一日 軍 一とらふ
組 一とらふ 一とらふ 一とらふ
進 一とらふ 一とらふ 一とらふ
渡 中 浪 渡 戸 乃 款 一とらふ
一 數 百 家 一とらふ 一とらふ
一とらふ 一とらふ 一とらふ
一とらふ 一とらふ 一とらふ
一とらふ 一とらふ 一とらふ

貞和二年伊達郡有田靈山田村
宇津次子城乃西後等を西伐の
しめつ族と率く地白軍初と
そのし大系大吏貞家起請文と
うし流仁木若幼大物しし
正平六年交方し軍初と抽し
さ乃旨少納之勅をうけし後り
是と執り
同七年台野沙合戦しし

野心を揚し軍市東は退治す
このし相軍高氏より号令
せらるるのみとき歌信の奥方小
しひく將軍乃與黨と退治せん
ししとましくあしくあしを
急し名取郡ししと城しし
軍初とぬししと力旨大系
を文しと修治し
同二年二月歌信し下北西後田村

之津文之城一楯落不ひ討
指へし其旨度く以て書しり
親應二年十月廿六日奥列海道
守後藏一福と

同十一月廿六日新方乃内子彦彦
勲功乃貴也く是と知れ
同年之津文伊を死縁前同村
乃彦司の一族以下府中一統
十月廿六日奥列

倉本河一とせしめ戦功とい
て一族郎は剣とくもつと
討死と親胤ししと剣とくもつ
同十一月廿二日名取郡廣津河
軍切をいしとく
左
左史貞家起清とく
岩部右衛門一とく
同十二月七日新方乃内名村を
く勲功は貴也く是と知れ

同二年七月より宮國目よりび歌信卿
陸奥右羽前と没落乃よりきこ地
是と搦捕率ありて忠實なり
こころりまうらるる自号今
屋の秋あり
同日手六月十百文あり
べい乃旨大納言 執をうけ後
しりあれと執事
貞治二年九月十百羽列の卜大是

乃内漆山門田飯澤等とて
知と
大者諸文あり
道号月洞
法名覺心

之胤

源少師 重胤が次男
父重胤軍將新波給下小房
福余

建武二年二月十日新波より
重胤書を以て方よりよりと
款射すその事とくく近伐と
一 且小高村よりとく城郷と
接へ 一とありの接へ一處と
乃款館を攻く山境を近治一且
小高の城とまうく
同二十二日廣橋修理亮經泰敷子
騎と率小高乃城一詰東防戦

よりく同二十日款近伐と
同二十七日標系郡よりとく
合戦ことより一 款多討指所大
永平九郎是と換と
同二月十日白川と野入道様
よりたの久能野より一 指所時小
光胤奥州海道乃軍乃式初と捕
首斬絶下り一 厨一とくみとく
と款をより一 取とく

あ初を修す事とす
是より下小高城
建武二年九月廿七日
お侍乃下総國おる郡
書と伯父孫次郎
ゆそり祖父重胤を
ゆき自然と父親胤を
居し海陽より何
うら死とこ乃こき
胤胤知雅小

あく相鶴を号す小高城は乃
はら一様即後方々
いづるまぐく凡六箇月
山林へ遷居す
申村六郎を結城と
代郡方の共と集
小指新えり
をい奥列
よりし一様即後と率

山後と攻うていふに山後敗れ
こゝ外に是れ此合戦なりと云ふ
軍士といふは一族郎従ありし
うら死ありしを判とす物あり
系頼乃代氏郎十郎道誠起信又
とさういふ種余り麻正且熊野
尊より池白忠節といふも乃威
はわり
建武四年正月廿七日新橋あり

建武二年十一月二十一日乃威
うら子藏乃威よりいふ動切の貴
やと見と知む
同二年奥所田村乃威の山後謀成
乃威子安橋郡部台田作河村
矢相之津光等よりいふ我共
捕つるに大京を自來起信又
をさしはるに木曾乃威よりいふ
又和二年六月一日竹城保郷よりいふ

是を知らず

延文二年十一月二十日

延文二年十一月二十日

康安元年

同二年十月二十一日

換新賦

貞治二年七月十一日

同二年七月十一日

治

同六年正月二十日
坪沼
これと知らず

同卯
あしを知らず

同子
同子

貞安
貞安

憲胤

同六年九月十日月高成保乃ら
と申す
至徳二年七月十二日長世保の内
大迫郷と申す
同十二月二日名取郡南方坊内郷
下村と申す大内新庄と申す
大と申す
道号大成

小字多氏王治部少輔
友部と申す
貞治六年八月二十三日父乃護
河岩
道号

胤弘

孫治郎 澄俊守 貞
と申す

貞永二年父乃後伏あきらしりく
以地あつちものあつち道号道空みちごう だうくう

重胤しげひ

治政ちげいの福ふく 幼方おなほう字なづな左ひだりと以もつて道号みちごう
天石あまいし

高胤たかひ

右羽みぎう字なづな以もつて系けい所ところにた行ゆき

道号大雄みちごう だいう

盛胤もりひ

大膳おほのぞの大吏だうし 以もつて字なづな所ところにた行ゆき
平ひら清きよ字なづなと度た之の合あ戦せんをなす
標系ひょうけい郡ぐんと取とり 道号日頭みちごう じつづ

歌胤かひ

澄すみ俊と字なづな

乃方字を極業と記す

岩城重澄とてとて合戦

橋本郡内多量の城本戸乃城

野漢城とせぬ且重澄とて

岩城乃城下種田河より

乃ら重澄と和談しとる下

の城を

伊豆掛甲の城二年岩陣

重澄伊豆晴宗と相謀城を攻ふ

をひく平陣し書陣し合戦

款つわい敗れしとる乃ら晴宗

あはしく終りしとる乃ら

とまのろ軍二歳あはれ

道号雄山

感流

彈正大弼 以すもあはれ

伊豆の度流河より晴宗

合戦一 敵 敵 多うら捕うら
輝系と合戦一 古作井の城丸森
乃城をせめけ子義胤と記す十歳
父子ありいふより一 書陣と四村清歌
相談と請ふ一 一うらと一うら
城をうらと一 此外輝系と記す
合戦と

去る長六の十月十六日中村と
七十歳と記す一 記す一 道

道号集

義胤

長門守 記す一 記す一
天正甲子七月七日伊達軍と
内矢の目め領山一 記す一
合戦一 記す一
角田小島村田石母田澤田沼倉等の

主及大町桑野 鶴田 武澤 成田 大枝
小原 茂庭 中内 杉本 末田 真柳 湯之村
赤澤 以外 騎兵 雜兵 子 御 今 今 取
同以 輝宗 正宗 正宗 正宗 同以 長考 務
少く 我 難 兵 卒 少 少 少 少 少 少 少 少
こ乃 とも とも とも 二 二 二 二 首 首 首 首 首 首 首 首
感 亂 也 也 也 也 也 也 也 也
同以 輝宗 正宗 正宗 同以 飯山 少 少 我
勝利 也 也 也 也 也 也 也 也

同以 輝宗 正宗 正宗 同以 今山 少 我
勝利 也 也 也 也 也 也 也 也
同以 輝宗 正宗 正宗 同以 飯山 少 我
少 少 少 少 少 少 少 少
其 一 少 所 也 也 也 也 也 也 也 也
書 陣 也 也 也 也 也 也 也 也
同以 同以 新地 少 我 欲 也 也 新地
の 城 下 也 也 也 也 也 也 也 也
同以 同以 石佛 少 少 少 少 少 少 少 少

ふ時不勝負あり

同以郎後等輝宗と同日越後

常より我東方乃共敗れり

同以奥州垣根郡古場小とひく

西宗が郎後と合戦しやま

款賜あり

同以同玉田村郡上宇津志下宇

津志を盤りてをひく西宗が合戦

一をひく不勝負あり

同以伊達をたす乃後十二所小とひく

有過りありをひく盛元が

二男お馬が郡古場澄元より死す

ころ丹波系や高しあり

天正十一年秀吉南東小進致

乃おさきお別小田原より

湯見よりあり秀吉乃命下り

ありて在系乃あり河川の肉

おひく五百石あり

秀吉薨去のゆゑに
太刀一腰とすま

寛永五年

大権現とす

台漣院殿石田三成より
在座川よりとす
を改易せらる

同武利の戸下とす
利胤ありしや
書

本館と安堵す

寛永三年十月
官位とす

叙長

同九年

台漣院殿
て台

福

同十二年十一月
申村

八十八歳
道号

外

打亂

孫治郎 大膳亮 領事 亦上 同
長之手 伏見 乃 城 下 之 兵
用 白 布 者 乃 湯 見 寸
同 以 後 之 信 下 之 教 寸
同 十 六 年

大樽 規 在 寸 心

台 德 院 殿 一 寸 心 一 寸 心 同 年 十

二月 二 日 宇 左 乃 庄 中 村 乃 城 小 移
右 寸

同 十 九 年 右 坂 陣 一 寸 心
聖 年 湯 陣 一 寸 心 義 亂 及 村 亂 也

台 德 院 殿 一 寸 心 奉

之 相 之 年 同 五 年 同 九 年

台 德 院 殿 湯 陣 乃 時 信 寸

寬 永 二 年 九 月 十 日 中 村 一

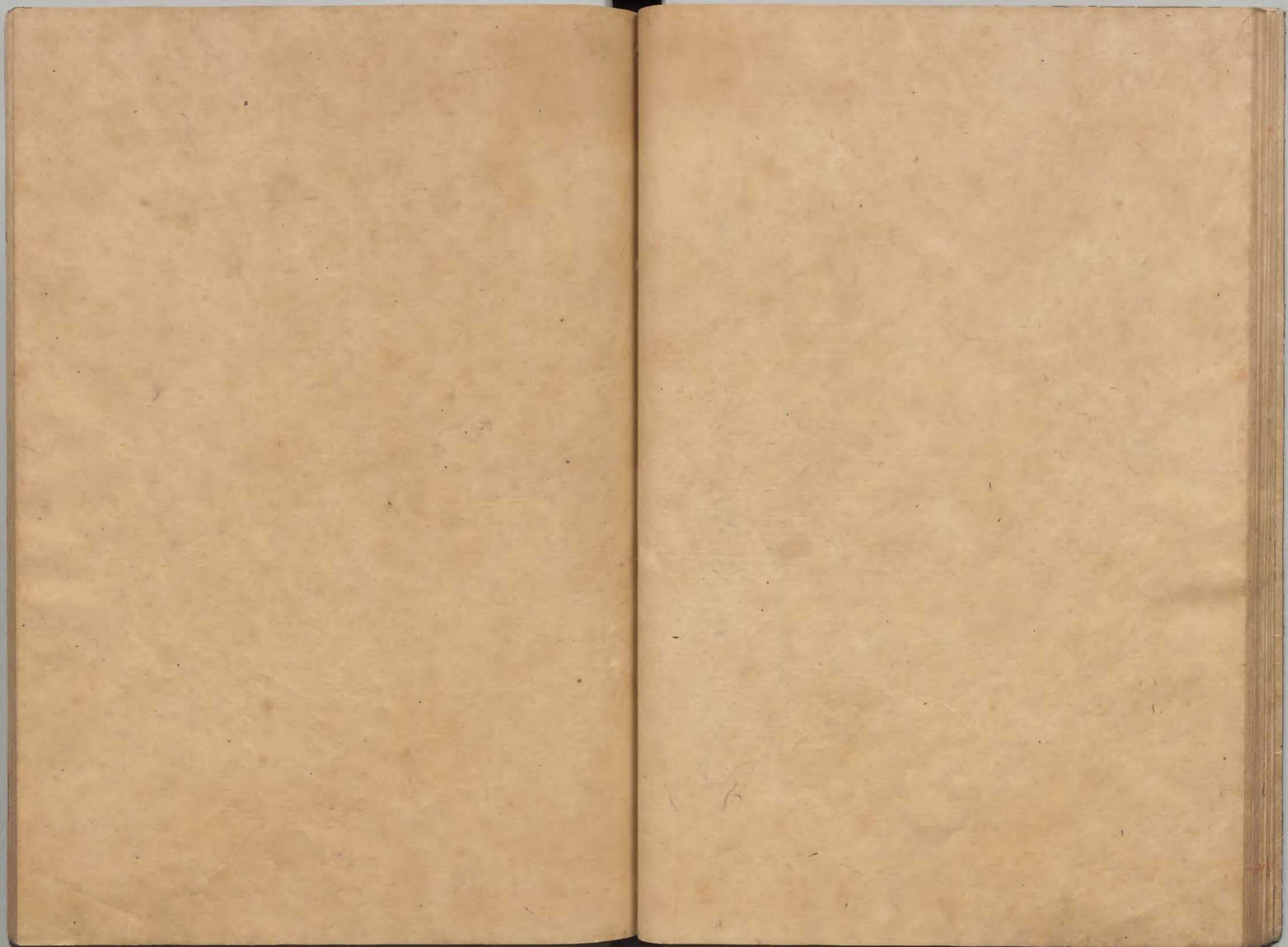
としく軍五歳少く死す
道号日璽

戦記

虎の 大膳亮 領とふ所と 同
父はとや 中寺 僅一七歳 老と 領
お邊なり 是と 一と 一と
寛永六年 乙未 月廿二日 一と 一と
台 海 防 敵 一と 一と

將軍 家一 福一 寺一 一と 一と
家一 先一 一と 一と 一と
同 十 二 乙 未 年 十 二 月 二 十 九 日 辰 巳 時 下
一と 一と 一と

幕乃 致 摩 了
家乃 致 九 曜 星



相馬 まげ

● 高望 たかね

上総介 かづのすけ

しんめい 平姓をいふ

良将 りやうしやう

上総介 後 足 のり

将門

伯父高隆大授國香とらり
下総國と館ト相了郡
新系をいひつゝ平親
承平は承平將軍貞盛受
命とらけ同系ト相了
うんととと將門執刀

承平のつとす
高原の信長と相了
深とあられよ東國
相了

将國

小治郎

又國 ウケ

小右郎

多別

信右

信長

頼望 タカシ

小右郎

信右

信長

常禱 トコ

小右郎

將長

小右郎

長望 ナガシ

小右郎

益頼 トクシ

小右郎

重國 シゲクニ

信右小右郎

胤國 トヨクニ

相馬小右郎

師國 シラキ

中務左

師長 シラキ

小右郎

義胤

小次郎

胤継

小次郎

胤治

左衛門尉

胤忠

上野守

胤長

左衛門尉

胤宗

左衛門尉

法石茂林

資胤

上野守

月桂と号す

胤儀

左衛門尉

在桂と号す

胤高いんたか

占野うらの

幸山ゆきやま

胤実いんみ

左衛門尉ざえもんゑい

正安ただやす

酒さけ 延のび

小次郎こじろう

宝珠ほうじゆ 庵あん

胤廣いんひろ

因幡いんぱん

天植あまえ

胤貞いんさだ

小次郎こじろう 花はな 柱はしら

胤晴いんはる

小次郎こじろう 玉たま 系けい

整胤ととのいん

小次郎こじろう

実山みづかみ と号す

治胤 りょう

右近大進

う山と号す うやま

秀胤 ひでゆき

小治郎

春山と号す はるやま

大権現領地

之を所とす

朝鮮

清

中陣のとき討ち

肥前名護屋より

胤信 ゆき

信濃守

中岩と号す

天正十七年

大権現より

盛胤 もりゆき

小治郎

天崇と号す あきたか

政胤 まさひ

小次郎

大坂支那陣 おおさかしなじん 不_レ仕_レ存

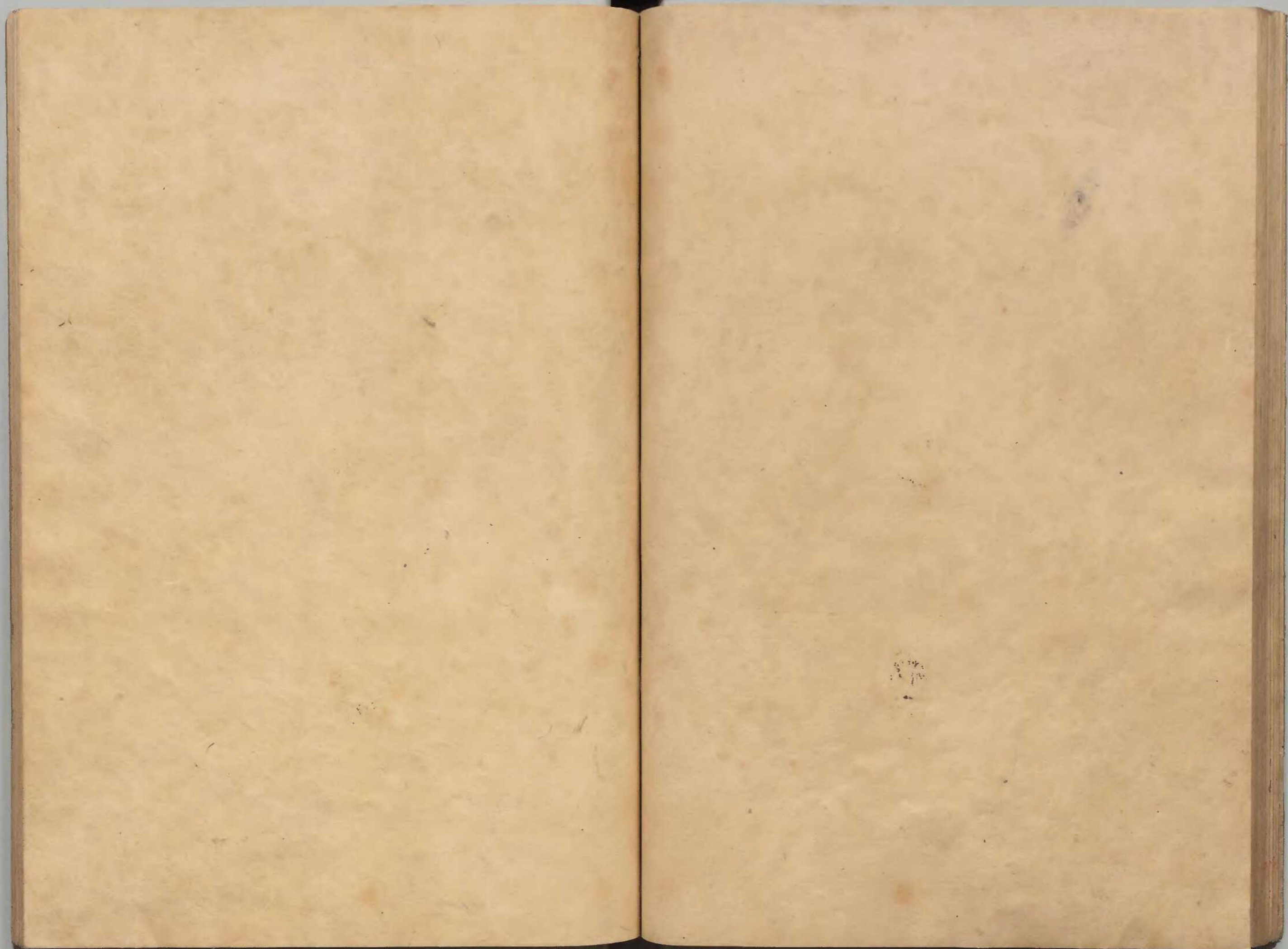
貞胤 まこと

小次郎

来

小次郎

安乃致原馬 やすのぢはらま



胡夷名あまのな

道半ちうはん

和田義盛之男胡夷名義秀わだのよしむねのむすこあまのなよしひで末裔すえ

なすし

今川義元いまがわのよしもとつゝ道半ちうはんの孫まご

まゝまゝ胡夷名あまのな乃字のなともともららめめらら

物比奈ものひなの字のなよりよりなりなりたしたし

泰冬 ヤマト

熱方忠門 生國駿河 ヤマト

先祖お別 三浦乃人あり泰冬曰 ヤマト

又着書が書子やりふ故り

可更と号りて

今川氏其い

家傳いしるを別其米川小

とて我の先登りてを録を

あふせうありぬ川をい
物以宗傳中守紀行一
方乃其を率てをい死
三十一歳

泰雄 ヤマト

岩出尉 法名雪之

泰勝 ヤマト

孫右郎 惣屋の尉 生國駿河

大指現行一法一人を以てすべし
泰為氏去りつる後別
物いふ領すむ所乃地子二百貫文
泰勝ありついで有領するもの
乃清書出判いすりし
天正二年
大指現行別一法一人を以てすべし
武田勝頼中清合戦乃時内藤
仁吉東首と討捕

同十二年 長久寺合戦より
ひく首級と取すりし
大指現行清馬と取りのせき別
白旗表よりいし前清(清江)
軍用より紙と取すりし
同十八年 秀吉小田原より
進發乃時と度中 泰勝小田
原より移りしと秀吉への使
りてしとれしとす

大権現の教命よりしり大津毒以
なすなりし 位をうけぬり
紀伊西村新宮よりしり
寛永十年九月廿五日十七歳
紀州和歌山よりしり 痛死
法名貞義

某

次郎左郎

恭成 中より

権太尉尉 生玉回あ

大権現よりしりしりしりしり

天正十二年長久寺よりしりしり

勝頼 中より 合戦 中より 中より 中より 恭成十七歳

少く首級 中より 中よりしりしり

名酒 中より 中よりしりしりしり

大津毒 中より の 中より 中よりしりしり

寛永六年六月十五日江戸
をひく病死二十二歳 法名清光

恭澄

江戸市 生國寺新江戸

台徳院殿

大坂合戦をひく首級を以

てりし時十七歳なり

將軍殿より江戸へ奉りて

沖小姓組乃番を以てし

寛永七年六月二十九日江戸

をひく病死二十九歳 法名清湖

恭通

江戸市 生國寺

寛永十五年六月一日

將軍殿より江戸へ奉りて

書院番より江戸へ奉りて

十石

象乃紋方巴

朝比奈

● 義直

彦直

生國

今川氏よりつる十歳あり

病死 治乃玄智

義次

市平 生國同前

大樽現

台浦信殿

受長十九年正月病死

薄卷

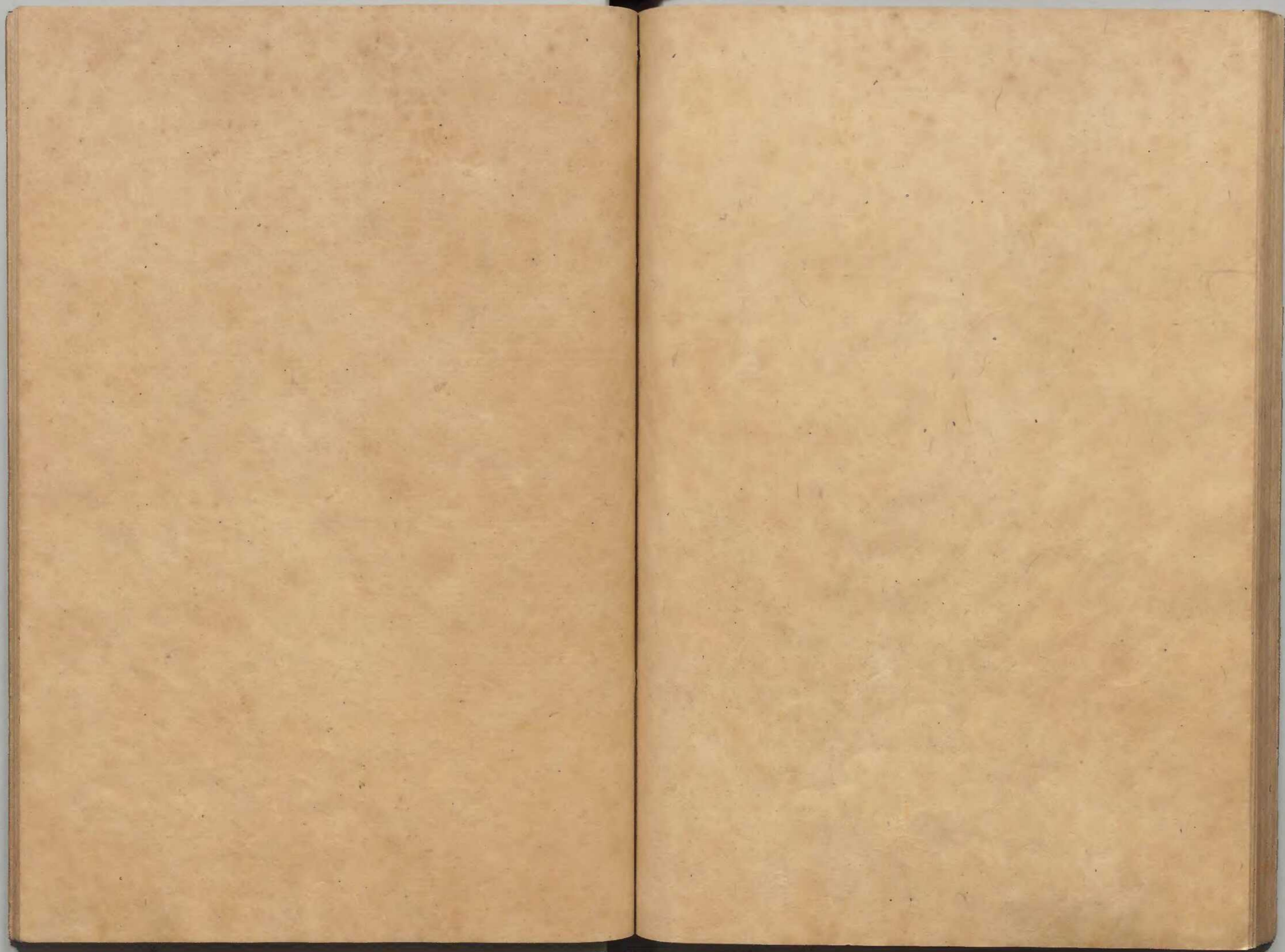
生宅

義春

市平 生國同前

將軍家

家乃級



● 泰雄 たけお

宋村 そうむら

胡以系 あまのひみ 岩部 いわぶ 亞 あ

大権現乃 おほごんげんの 嚴命 げんめい 一 いち 行 ゆき 水 みづ

申納之 まうなるとし 賴房 らいぼう 以 もつ 行 ゆき 水 みづ

正次

朝以系内記

越前宰相忠高（一）行入末地

行

元和八年十月七日行入病死

法名宗位

正次

一節右あり

武則末村（一）行入

朝以系（一）行入末村

台徳院殿（一）行入

大坂あり法陣（一）行入凱旋

乃ら武則乃内系（一）末地

行

寛永九年

將軍家（一）行入

同十年同心二十人とのあつらひ
同十一年四月二十三日歳五十一
しゝ病死 法名道仁

三重

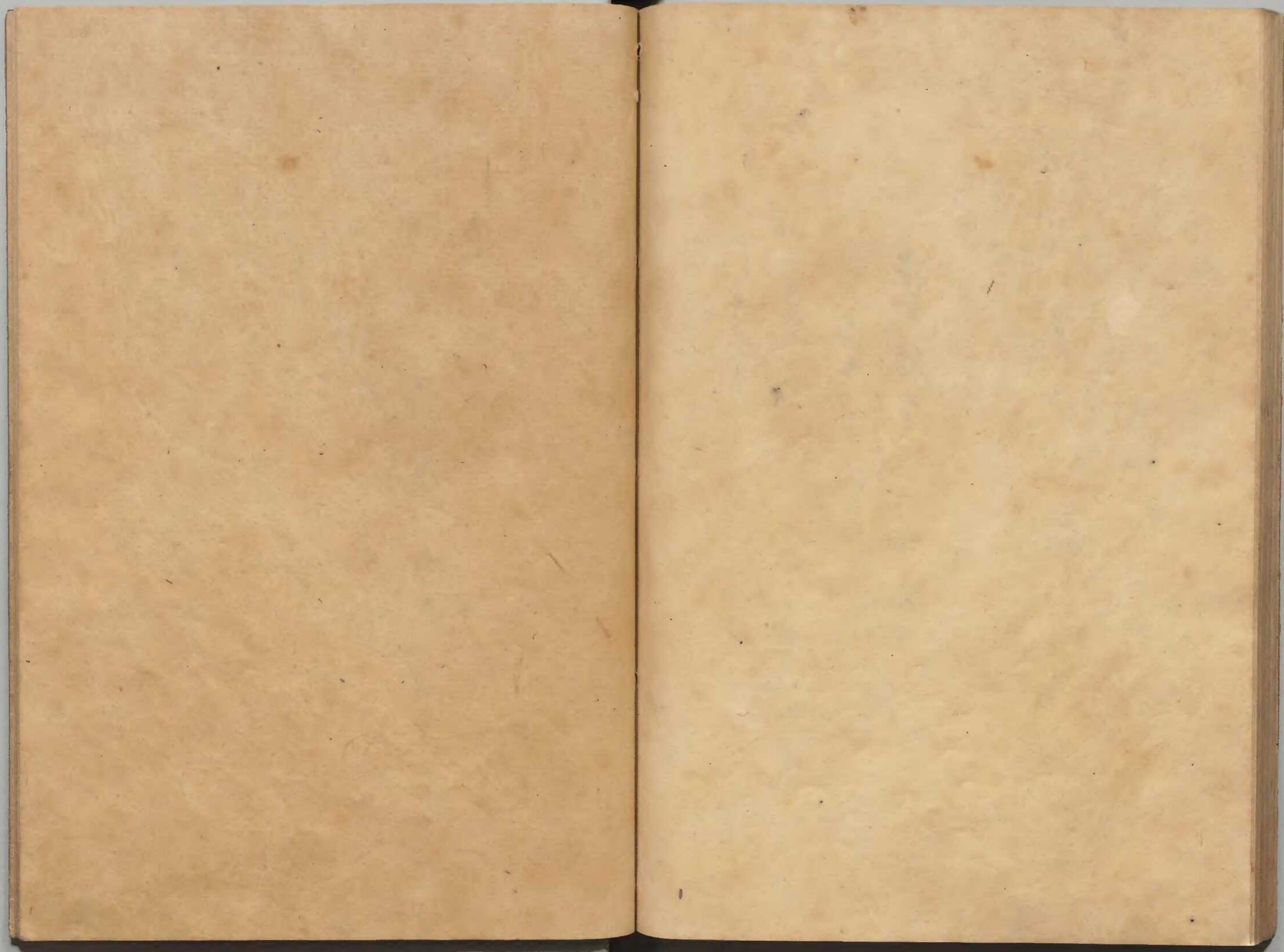
左源右 中里 武蔵 江戸

寛永九年五月

將軍殿より福

月十一日八月五日

家乃致らぬ也



長多見

一ノ本田見乃字と
まゝ山見乃字と

● 重長

畠山左衛門 江戸右衛門

杉廻一ノ二軍初あり

重盛 しげ

江戸右郎

氏重 しげ

本田見小次郎

重方 しげ

江戸右郎治郎

重持 しげ

新右郎

泰重 しげ

新右郎

長門 しげ

重持

將軍氏 しげ
福倉基氏 しげ

しげ

高直

友右郎

康重

三郎 大系亮 後河守

永享十一年二月將軍義教編合
持氏征伐月々寺康重治政

重直

三郎

重廣

大系亮 後河守

某

又右郎

五川台我^{うす川}一^{うす}うら^ら死^し

定^{さだ}重^{しげ}

孫六^{うすむねのむすひ}大系^{おほひ}亮^{りやう}

信^{のぶ}重^{しげ}

又^{また}右^{みぎ}郎^{らう}

廣^{ひろ}重^{しげ}

小^こ之^の郎^{らう} 駿^{しゅん}河^が守^{しゅ}

門^{かど}重^{しげ}

孫^{まご}八^{はち}郎^{らう} 大^{おほ}系^ひ大^{おほ}属^{しゆ}

吉^{きち}光^{みつ}

戸^と中^{ちゆう}号^{ごう}す

小^こ田^の原^{はら}一^{いち}右^{みぎ}郎^{らう}

正^{ただ}

系

新右衛門

川越合戦 → うら死二十六歳

頼忠

刑部

天正十八年 小田原陣のとき

うら

元和五年、八月病死、九十歳
法名興樂

朝忠

橋津守

小田原陣のとき 伊豆國下田

うら

安永七年八月、病死、五十一歳

法名法心

勝五

五郎左衛門尉 若狭守

小田原清陣のきき小田原北城下

阿比

大塚現岡東清入玉乃やうい

市之れ奥川清陣下信守

又孫之季頼輝陣此時信守

く肥前名後屋下了了

安長五年法川岡原清陣下

馬下信守

大坂友清陣下信守 鉤命下

石川主房以下信守

高柳乃城下信守

乃郡代下信守

代下信守

台津原殿下信守

糸川場乃政下信守

不_子 叙_子

寛永_子 甲子十二月_子 病死六十歳
法名宗珠_子

正史_子

正水_子

大権現_子 行_子 人_子 生_子 人_子 子_子
後_子 下_子 不_子 叙_子 寸

元和_子 丙子七月病死_子 年一歳

正恒_子

五郎_子 衛門尉 生_子 壬戌_子

受_子 長_子 十_子 二_子

台_子 德_子 院_子 殿_子 不_子 福_子 一_子 年_子 十_子 三_子

大坂_子 支_子 清_子 陣_子 不_子 行_子 寸

正勝_子

久_子 安_子 生_子 國_子 同_子 家_子

之和子くく

台徳院殿より湯ゆ一つ本ほんくく申まりまる

一いつ十じゅうのの歳さい

同六年涉しやのの書しよとと申まる

寛永かんえい之の年ねん 町まちがが世よににししるる

杉すぎ年ねんちち申まつつ申まるる 正ただ久く延えん一いつ局きょくとと

涉しや小こ姓しやう延えん乃の書しよをを一いつとと申まる

同四年

台徳院殿より父ちち名な授まつつ領りやう地ぢ内うち申まる

年ねん

同八年 台たい命めいとと申まるる 涉しや前まへ小こ

台たい納なつ戸こ乃のヤやくくとと申まる

同九年

台徳院殿たいとくゑん費ひ所しよ乃の申まる

將軍しやうぐん命めいよりより涉しやのの書しよをを一いつとと申まる

同十年大田おほの中なかつ書しよ資し宗そう延えん一いつ局きょくとと

涉しや書しよ院ゑん書しよ一いつとと申まる

同年 鉤かぎ命めいよりより涉しやのの書しよをを一いつとと申まる

乃なりくなりなり
同十手 教命しよめいととううあありりと
命いのち夜よととあありりととあありりと
同年どうねん河内かんな高槻郡たかづきぐん常門村とこもんむら
あありりととあありりととあありりと
あありりととあありりととあありりと
同十手 杉すぎががせせううととあありりと
清しみず目め付つけととあありりと

家乃紋いへのみぶら亀甲かめこう

